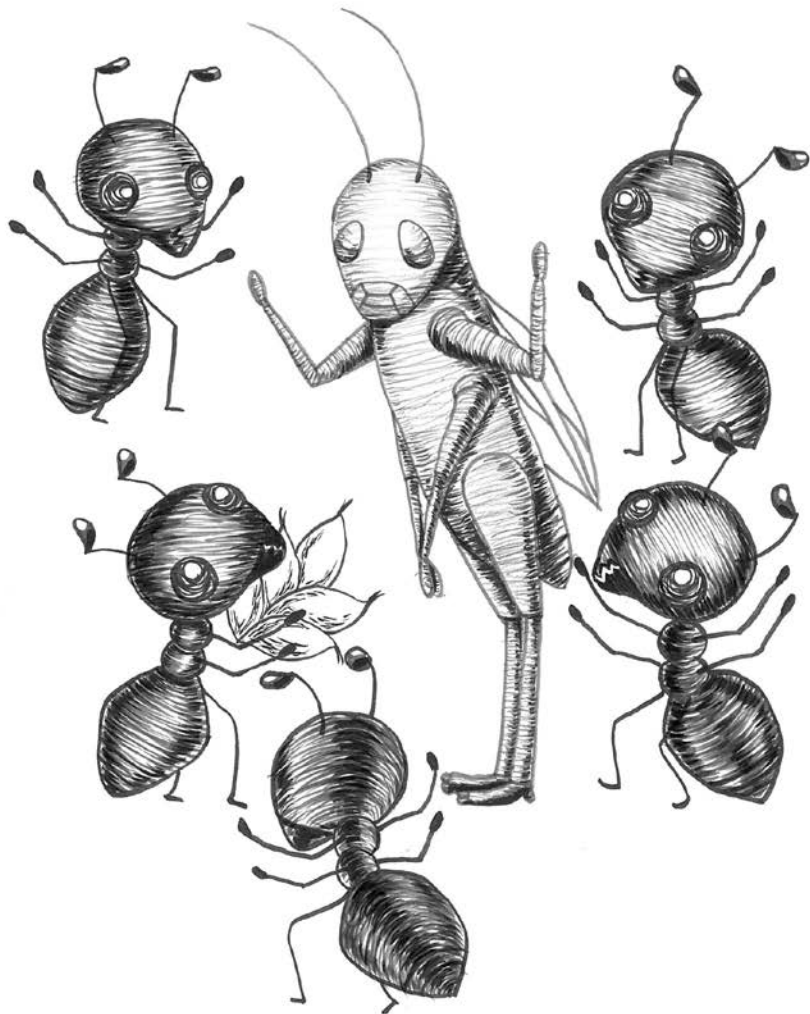
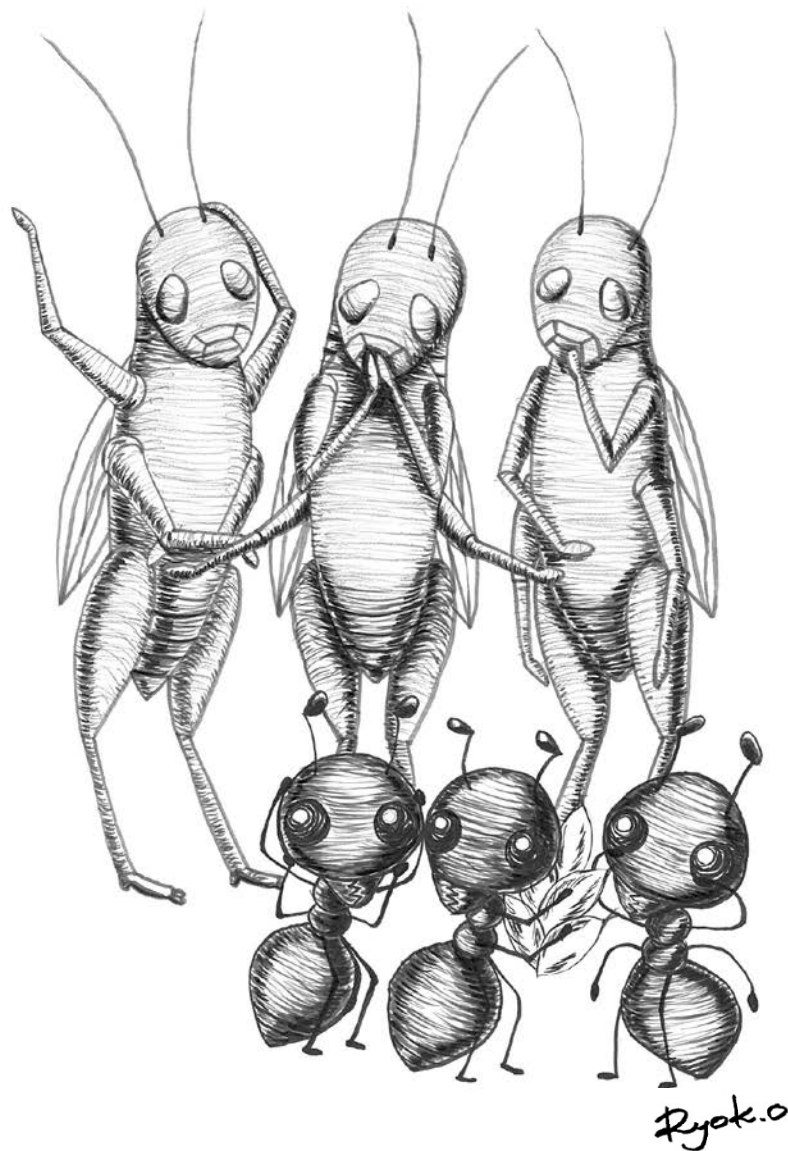


これまで



これから？



具体的に公的サービス（歳出）を削減するには？

- 局面はプラスサム、ゼロサムではなく、**マイナスサム**
⇒ 誰が見てもムダなものの削減だけでは不十分
⇒ 「**絶対に必要**」な事業（純粹公共財＋価値判断）と
「**あったらいいな**」事業をどのように**分別**したらよいのか？
- 将来の経済の生産力と国民の負担力との関係で、
「**絶対に必要**」と思われるもの（価値判断）ですら、
どこまで**政府**でまかないきれぬのか？
⇒ **自助、共助に任せるもの**をどう**選別**すればよいのか？
- 政府のパフォーマンスの向上（**行政の革新**）、自助・共助
の役割の拡大（**参加型社会**？）、技術革新などで、スキマ
をどのように補完？

国家のあり方

1. 国家
2. 法の支配
3. 説明責任を負う政府

成功した近代的な民主制はこれら3つの制度を安定したバランスで組み合わせているが、いくつかの国家においてこのバランスを達成できたことは近代政治における奇跡と言える。なぜならこれら3つの制度を組み合わせたことができるというのは自明のことではないからだ。「国家」は、結局のところ権力を使って国民に法を順守させるとともに他の国家や脅威から自らを守るものであるのに対し、「法の支配」と「説明責任を負う政府」は、権力を公で透明なルールに則って、また人々の意思に基づいて行使させることにより国家の権力を制限するものである。

(出典) 「The Origins of Political Order: From Prehuman Times to the French Revolution」(Francis Fukuyama (2011) : アメリカの政治学者) を基に当事務局が和訳したものを抜粋

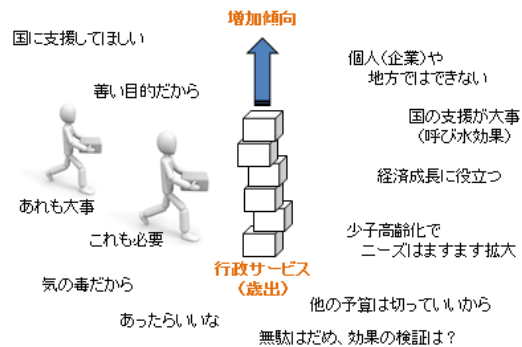
市場が存在するためには、場所を問わず、常に強い国家が必要である (中略) 。まず、悪徳なプレーヤーが市場での競争に参加してはならない。次に武力の掟が交換のルールにすりかわってはならない。さらに、所有権の侵害は許されず、消費者は支払い可能な状態に置かれ、暴力は社会的にきちんと管理されていなければならない。

(出典) 「21世紀の歴史」(ジャック・アタリ : フランスの経済学者・思想家/林昌宏訳2008/8) を抜粋

公共とは？

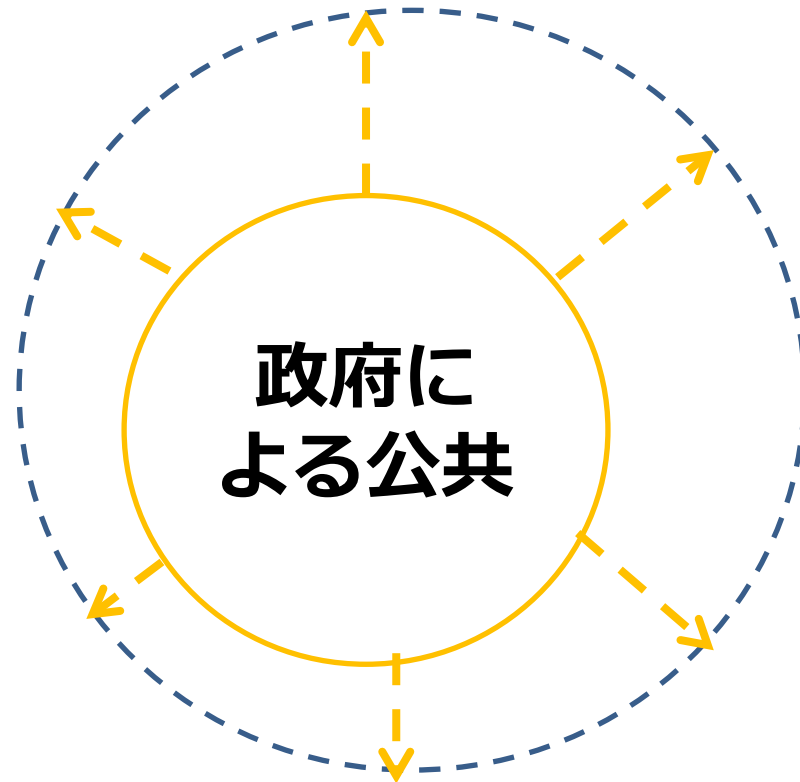
- 経済学的？
必要な事業だが、その負担を求めるとフリーライドとなりうる分野（供給の非排除性、消費の非競合性）
⇒ 税による強制負担
- 政治学的、社会学的？
構成員皆で、供給を決めるもの（集合的意思決定プロセスを通じて）

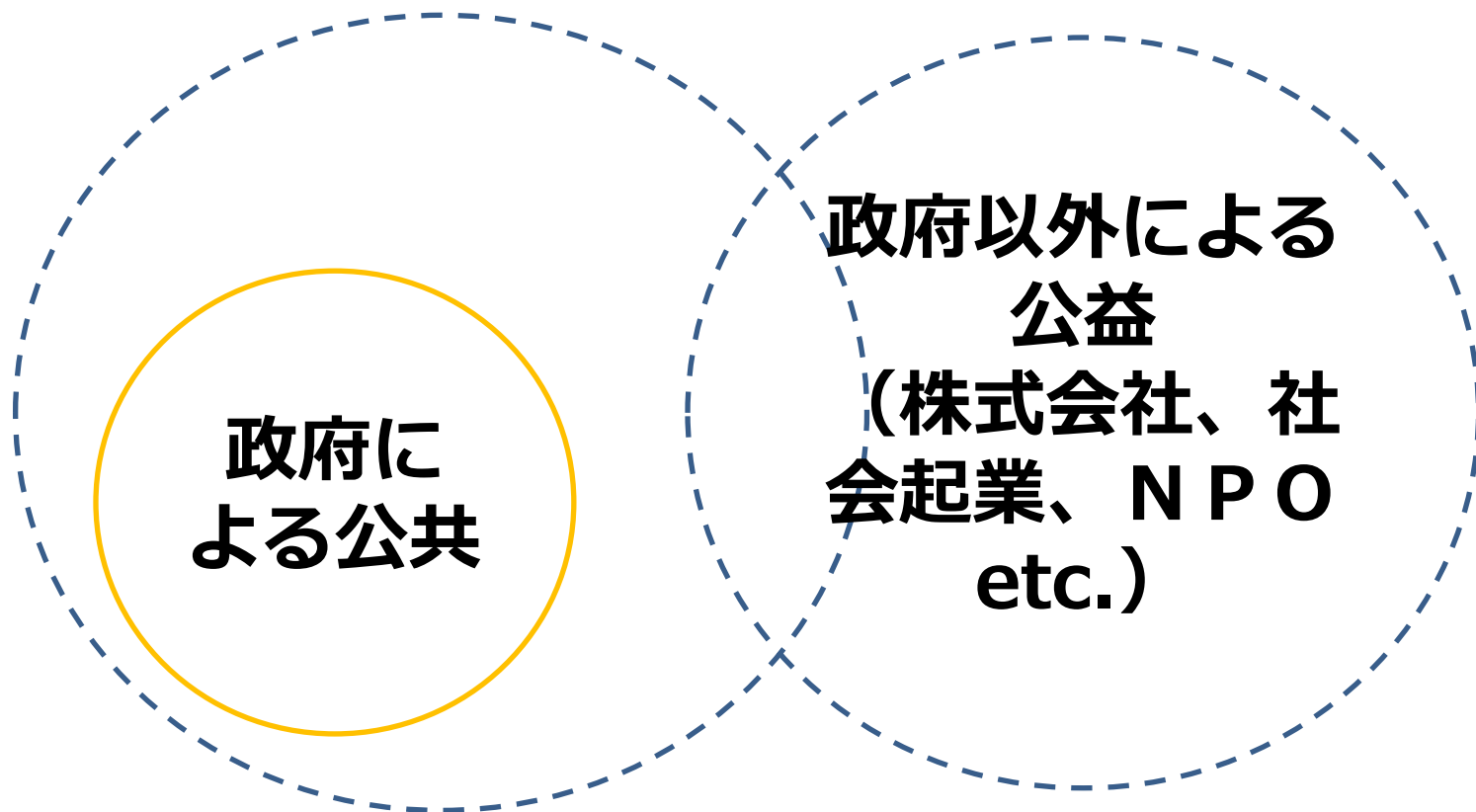
国の事業への要望は？（イメージ）



税（借金）

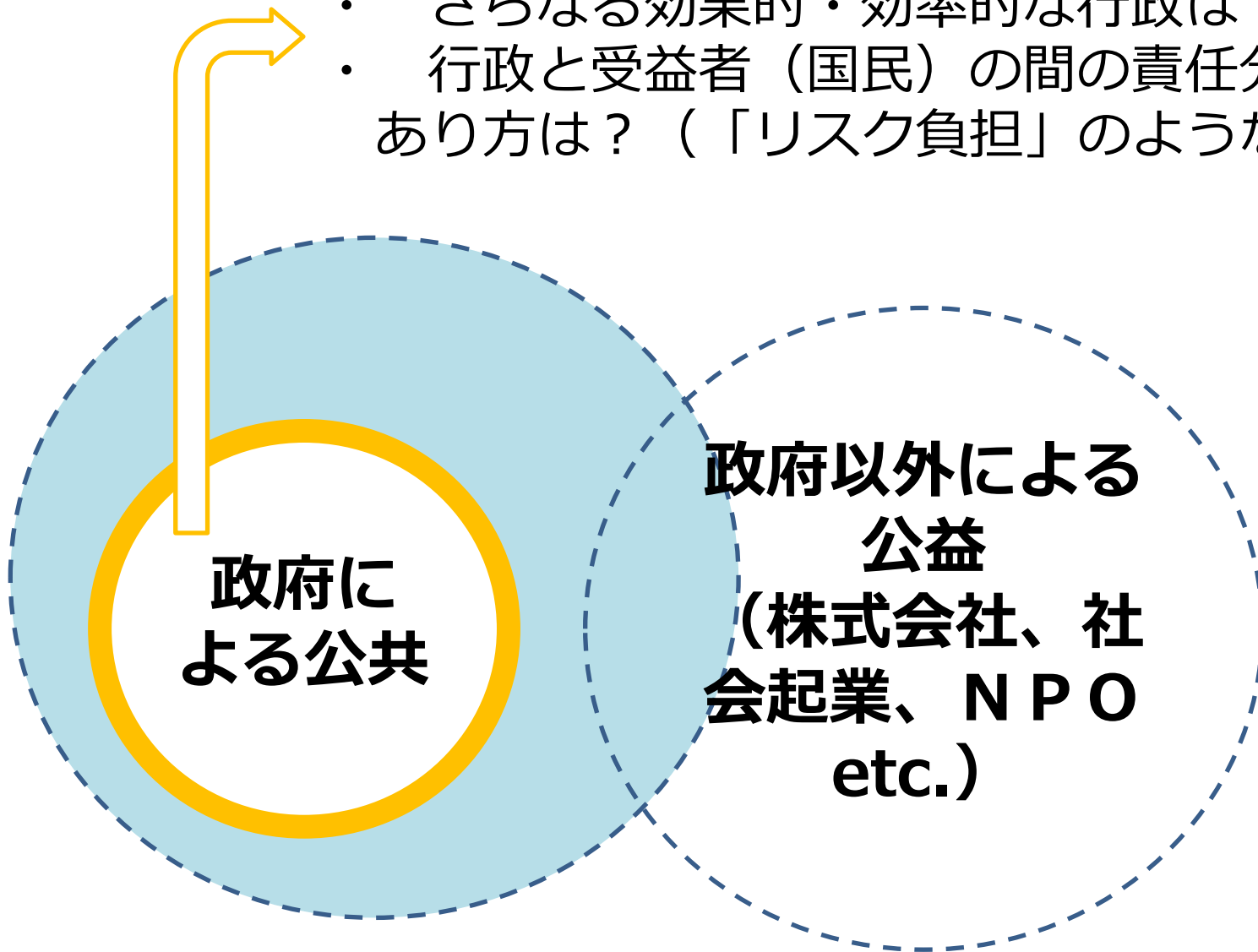
政府による公共の膨張？ （イメージ）





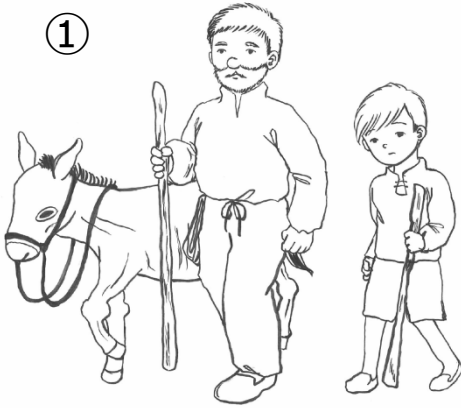
少子高齢化によるニーズ拡大
政府以外の主体の深化
リソースの制約と政府の持続性

- ・ 政府に求められる範囲は？
- ・ さらなる効果的・効率的な行政は？
- ・ 行政と受益者（国民）の間の責任分担のあり方は？（「リスク負担」のような？）



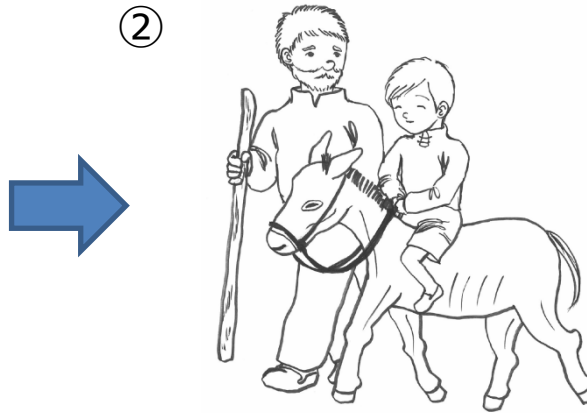
ろばを売りに行く親子

①



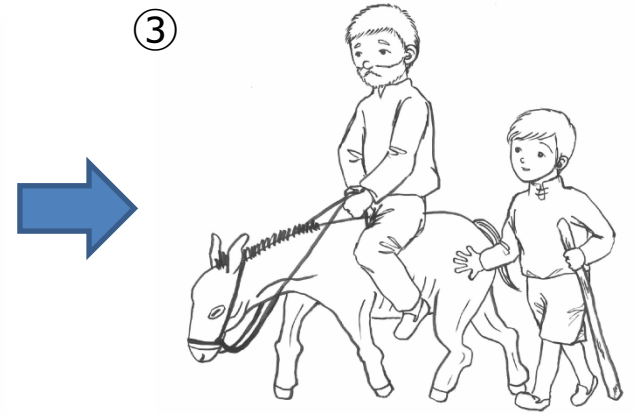
父親と息子が、ろばを売りに行くため、市場へ出かけた。

②



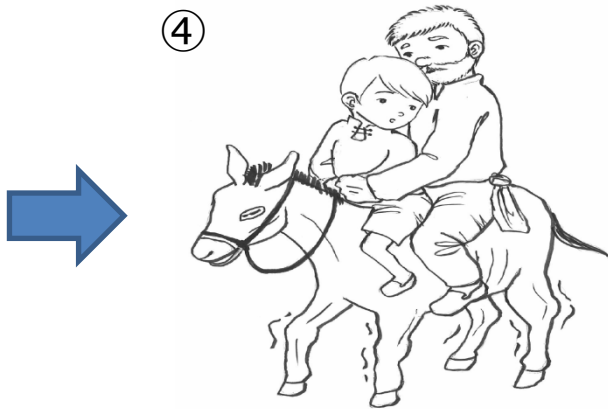
それを見た人から「ろばに乗らずに歩いて行くなんてもったいない」と言われ、父親は息子をろばに乗せた。

③



別の人からは「元気な若者が樂をして親を歩かせるなんて、ひどいじゃないか」と言われ、今度は父親がろばに乗った。

④



ところが、「自分だけ樂をして子供を歩かせるとは、ひどい親だ。一緒にろばに乗ればいいだろう」と言われ、今度は2人でろばに乗った。

⑤



ところが、「2人も乗るなんて、重くてろばがかわいそうだ。」と言われ・・・
とうとう父親と息子は、2人でろばを担いで歩き始めた。

Ryok.o